



ITU-D SG2会合結果

総務省 国際戦略局 国際戦略課

1. 概要

2023年10月30日から11月3日にかけてITU-D SG2会合が開催された。主な会合目的としては、ラポーターグループの年間進捗及び最終報告書における章立ての確認で、SG2会合参加者は246名を数え、そのうちリモート参加が87名で、60の加盟国から参加があった。

会合前の集計では、118の文書が提出され、この数字は、過去2年間の提出数（2022年の85文書、2021年の104文書）と比較しても十分多い数字であったといえる。ただし、内訳を詳しく見ていくと、最多のQ2/2は27文書提出されているものの、最小のQ6/2には9文書しか提出されておらず、Qにより文書提出数に偏りがあることが分かる。

なお、我が国からは、研究課題Q1/2（持続可能なスマートシティ）に、KDDIの中山氏より「IoTクラウドプラットフォーム及びワークブース」の事例の紹介があったことを付言しておく。

2. SG会合の課題

SG2だけでなく、SG会合全体の問題として、以前より、任命されたラポーター及び副ラポーターの会合への参加率の低さや、Qの運営について懸念が示されている。

(1) 正副ラポーターの参加

正副ラポーターに任命されても、会合に参加しない正副ラポーターの数が多い状況である。一部の国からは、正副ラポーターで構成されるメーリングリストを作成し、会合ごとに会合内容の周知やそれぞれの責任・役割分担について正副ラポーターへリマインドすることで参加を促す方策が提案されたりもしているが、SG会合の運営においては、大きな課題の一つである。なお、我が国からの正・副ラポーターの各会合への参加率は、オンラインも含めると毎回ほぼ100%の参加率である。

(2) Qの運営

今回のSG会合に提出された寄書の内容は、過去の会合と比較しても提出数が多いため、すべての提案を審議するためには、各Qに割り当てられた審議時間では不十分との指摘

があった。十分な審議時間を確保するために、SG会合期間の延長、たとえば、現在それぞれ1週間開催している会合を2週間に延長してはといった意見や、次回WTDCにおいて、現在SG1及びSG2合わせて14あるQの数を統廃合して削減することで、各Qあたりの審議時間を長くしてはといった意見があった。

総じて、正副ラポーターの参加率やQの数については、以前より指摘されている問題であり、参加者の中でも意見が割れている。正副ラポーター数の制限やQの統廃合に反対する勢力もあり、SG会合の在り方を見直すにあたっては、合意形成が難しい側面がある。ただし、将来的にSG会合をこれまで以上に実りある会合とするためには、次回WTDCに向けて決議の見直しも視野に入れて検討していくことが一つの検討課題といえる。

3. 各Qの主な会合結果

各Qに提出された寄書の内容は、それぞれの文書を直接お読みいただけるので、ここでは、各Qにおける会合結果について簡単にまとめておく。

■Q1/2

加盟国などよりQ1/2に提出された12の文書及びITU-T Study Group 5からの2つのリエゾン文書及び（ITU-R Working Party 5Dについて審議した。

Q1/2の作業計画（work plan）に関しては、今回のSG会合で提出された文書も含め、今後最終報告書のとりまとめに着手することが確認されるとともに、更なる文書提出が必要との認識が共有された。今後は、次回ラポーター会合において、ゴールに向けて会合を進めるとともに、関連するワークショップの開催を予定している。

■Q2/2

加盟国などよりQ2/2に提出された19の文書及びITU-T Study Groupからの3つのリエゾン文書及びITU-R Working Party 5Dからの2つのリエゾン文書について審議した。また、Q2/2としてのこれまでの会合内容をまとめたリエゾン文書を、他の2部局に送付することに同意した。なお、



Q2/2の作業計画 (work plan) に関しては、紹介されたものが変更なく承認された。

■Q3/2

加盟国などよりQ3/2に提出された16の文書について審議された。

Q3/2の作業計画 (work plan) に関しては、従前から変更することなく、引き続き、Q3/2のToRに沿った形で最終報告書を準備することが確認された。ただし、現状では、CSIRT coordination, incident response, SMS smishing 及び5G Cybersecurityに関する文書が提出されていない点について十分留意するよう注意が促された。なお、これらの内容について、次回Q 3/2のワークショップが開催される予定である。

■Q4/2

加盟国などよりQ4/2に提出された5の文書及びITU-T Study Group 11から連絡を受けた5のリエゾン文書について審議された。

Q4/2の作業計画 (work plan) は見直され、目次のsection 6.2を英訳することや、現在あるいくつかの章 (Chapters) を統合し、異なる章立てとすることを副ラポーターが中心となり取りまとめることが合意された。

■Q5/2

加盟国やセクターメンバーよりQ5/2に提出された20の文書について審議した。Q5/2の作業計画 (work plan) も見直されたが、当面は変更なしで合意された。

■Q6/2

加盟国やセクターメンバーよりQ6/2に提出された7の文書及びITU-T Study Group 5からのリエゾン文書について審議した。Q6/2の作業計画 (work plan) については、最終

報告書を作成するにあたり文書提出状況が芳しくないため、これまで以上に文書を提出するよう参加者に呼びかけがあった。

■Q7/2

加盟国やセクターメンバーよりQ7/2に提出された7の文書及びITU-T Study Group 5からのリエゾン文書について審議した。Q7/2の作業計画 (work plan) については、現状を踏まえ微修正があった。また、Q7/2からT及びRセクターへ送付するhuman exposure to EMFに関するリエゾン文書が採択された。

4. 今後のスケジュール

今後のSG2会合のスケジュールとしては、WTDC開催までに、SG会合を2024年と2025年に各1回ずつ開催し、ラポーター会合を1回開催することが予定されており、合計で3回のSG2関連会合が予定されている。SG2としては、この残り3回の会合機会を利用して、最終報告書を取りまとめていくことになる。

年度	会合名	日程
2024	SG2ラポーター会合	4月29日から5月10日
	SG2会合	11月11日から11月15日
2025	SG2会合	2月24日から2月28日 (tbc)

ただし、会合の開催場所については注意が必要である。具体的には、次回ラポーター会合に関しては、ビル建て直しが延期されたため、ITU (ジュネーブ) での開催が予定されている一方で、2024年及び2025年に開催されるSG会合に関しては、現時点においてITU敷地内の会議室が使用できない状況にあるため、各加盟国にはSG会合の招致を検討するよう要請されている。このため、2024年及び2025年のSG会合の開催場所などの詳細については、現在検討中である。